

Money meets the Int

ウォール街はインターネットを、どう評価しているのか？

執筆 エリック・ガワー + 榊山 寛
Eric Gower Masuyama



個人投資家の観点からインターネットを
考える「Money meets the Internet!!」
今回は、ネット企業を支える
総合情報サービスのインフォスペース
を取り上げる。はたして
現在の安い株価は「大バーゲン」なのか？

本記事は特定企業への投資を勧誘するものではありません。資産運用は目的を持って自己責任で行ってください。



エリック・ガワー

Eric Gower

投資家、ライター。1961年米国ペンシルバニア生まれ。カリフォルニア大バークレー校卒。主な著書に『日本は金持ち。あなたは貧乏。なぜ？』（毎日新聞社）がある。

Chapter

6 ポータルから決済までを統合する インフォスペース

1,000億ドル 企業になる？

何事にも率直で、挑戦的な発言をする傾向のあるCEOとは、パワフルな道具のようなものだと思う。使い方次第で、すばらしい利益をもたらすことも、非常に危険をもたらすこともあるのだ。インフォスペース社(Nasdaq: INSP)の熱烈な創設者であり、CEO兼チェアマンのナビン・ジェインは、1年という短期間に、ウォール街からの「お世辞」と「叱責」を両方経験してしまった。

2000年春に彼はこう語った。「この世界には2種類の人がいる。信じない人と信じる人だ。言い換えれば、神だけを信ずる人と、神とインフォスペースを信じる人だ。まあ、それはそれでいい。信じない人も、我々が1,000億ドル企業になったときには、転向することになるのだ。これは、INSPの株価を2000年3月に138ドルにまで押し上げることになった「1,000億ドル発言」の部分的なものだ。現在の株価は、2001年1月のカンファレンスコールで発表された主要取締役の退社や、新年度の低い業績予想を受けた結果、

5ドル程度にまで下がっている。

ワシントン州ベルビュー市にあるインフォスペース社は、マイクロソフトのエグゼクティブだったジェインによって、1996年に設立された。提供しているのは、ジェインによれば「グローバルインターネット情報インフラサービス」である。具体的にはポータルやディレ

クトリーサイト、検索機能や、支払い決済処理などのことだ。別の表現をすれば、INSPのクライアントのほとんどは小売人とワイヤレスのキャリアであるが、そのクライアントが抱える顧客に対して「トータルなウェブ体験を与えること」である。

インフォスペース【INSP】

インフォスペース(INSP)は、以下のようなさまざまな分野の情報サービスを統合的に提供する企業である。検索とリファレンス、プロダクティビティ、コミュニケーション、コマース、娯楽。つまり、PCやPDA、携帯電話といった情報機器を通じてネットビジネスをしていこうとする企業のシステムやソフトを、トータルにサポートしているのだ。INSPのサービスが使われるときは、顧客が自社ブランドを表に出すことが多いので、一般ユーザーにはあまり社名が浸透していない。米国以外ではカナダと英国に事務所を持つ。



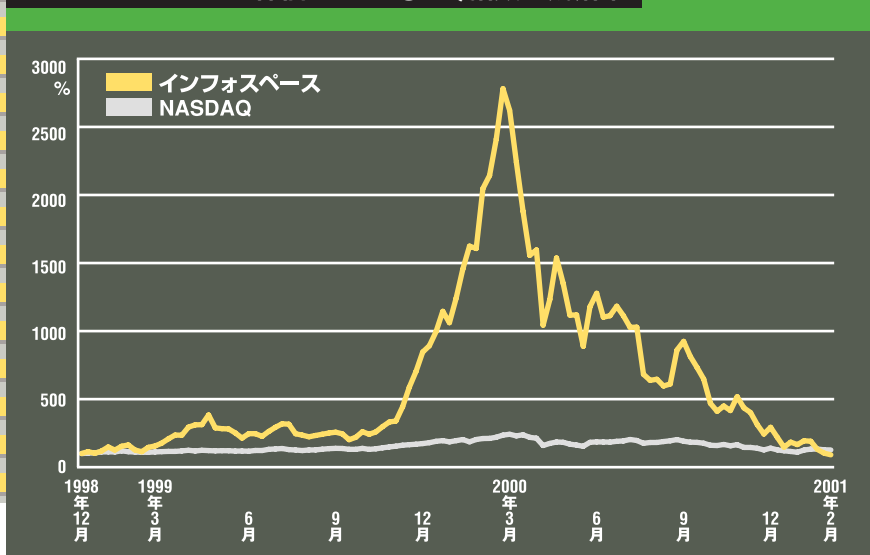
2001年2月15日現在

Data

本社	米国ワシントン州
設立	1996年
代表者	Naveen Jain (CEO)
株式取引市場	NASDAQ
Ticker Symbol	INSP
分類	Internet Information Providers
株価	5.13ドル
時価総額	16億6,325万4,000ドル
発行株数	3億1283万3000株

www.infospace.com

インフォスペースの株価とNASDAQ 指数の騰落率



インフォスペース上場日(1998年12月14日)を「100」として騰落率をグラフにまとめたもの。

「情報空間」を統合する

たとえば、あなたが移動中に、プリンターを新しいものに買い換えようと思いついたでしょう。あなたは、携帯電話やそのほかのハンドヘルド機器でネット上から情報を探して自分のニーズに合った機種を選び、小売店の中からベストの値段で、1~2日で配達してくれる店を探すだろう。うまく見付ければボタンを押して購入することになる。INSPはこの3つのステップでそれぞれビジネスをする。

- ① 初期のリサーチに使われるディレクトリーサービスの提供。

- ② 顧客を探している小売店に名簿を販売。
 - ③ 支払いにおいて小額の手数料を徴収。
- しかし消費者は、インフォスペースがこれらのすべてに関与していることに気付くことさえない。というのは、INSPはクライアントに「プライベートレーベル」という条件でサービスを提供しているからだ(クライアントとは通信事業者が約20社、ウェブサイト関連が3000サイト以上、小売商が約200万社にもものぼる)。

プライベートレーベルとは、クライアントが自前でウェブを運営しているように見える方式のことだ。つまり、消費者にはINSPのロゴではなくINSPのクライアントのロゴだけが

見える。ポータルサイト上の検索であっても、小売業者のサイト上で実際に販売が行われる際でも、同じことだ。これこそが、インフォスペース社が支配的な地位を占めようとして望んでいる「空間」(スペース)なのだ。それは情報提供で始まり、ユーザーが何らかのアクションを起こすことで終わる空間である。そのINSPが現在狙っているのは、ワイヤレスネットワークという大舞台である。いまでは実際に、そこに向けてエネルギーを傾注している。

こうしたサービスは、CEOのジェインが私たちに思わせたいほど革命的に見えないかもしれない。たとえば「My Yahoo!」は同じ

インフォスペースに対する見解

BULL

- ・市場が大きく、成長が速く、収益率が高い。
- ・ウェブの入口から出口まで、ビジネス機会の多さ。

BEAR

- ・役員の大リストラ、高くついたGo2netとの合併。
- ・ドットコム企業全体の落ち込み。



BULLは「強気」、BEARは「弱気」を意味する。

Money meets the Internet!!

ウォール街はインターネットを、どう評価しているのか？



ようなサービスの一部をすでに提供している。しかし、ワイヤレス通信の事業者とウェブ業者が自前のブランドを保持したまま、継ぎ目のない1つのプラットフォーム上でこうしたサービスを提供するためには、INSPによる統合が必要であり、それこそがINSPが創造した価値の中核なのだ。

80%という 超高利益率

ジェインの熱心さとはやや別に、INSPのビジネスモデルに関して投資家たちが歓迎したことの中には、80%という、とんでもなく高い利益率がある。こんなハイレベルの利益率は、その会社の売り上げや収入が正当化する「適正株価」の水準から何倍もの高い値を付ける要因になることが多い。というのも、それが続けば、ある時点でその会社はすばらしい収益を上げ始めるようになるからだ。INSPがターゲットにしている市場は、巨大で、成長度が速く、販促費、広告費、手数料、ライセンス費などさまざまな部分から収益を上げることができる。そして、それは今でも事実なのだ。

2000年7月、INSPはDSLとケーブル回線の通信業者にもサービス提供を強化すべく、高収益なブロードバンドサービス会社、ゴートゥーネット（Go2Net）の買収をアナウンスした。しかし、それ以降のドラマティックな株価の下落を見てみると、その買収がうまくいかなかったのは明かだ。ゴートゥーネット

インフォスペースの業績と株価の推移

		1999年度		2000年度		
		9月期(3Q)	12月期(4Q)	3月期(1Q)	6月期(2Q)	9月期(3Q)
業績	売上げ	1,010万	1,490万	1,900万	2,460万	5,770万
	収益	130万	-1,730万	-8,300万	-3,120万	-4,870万
株価	高値	14.98	54.25	138.50	78.25	60.00
	安値	9.22	9.69	40.25	37.13	25.50

単位：ドル

の元CEOで、INSPのCOOだったラッセル・ホロウィッツは2001年1月に買収時に一緒に連れてきた役員とともに会社を去った。また、ワイヤレス通信の世界でトップエグゼクティブの1人と目されている、元ボーダフォンのカリスマCEO、アルン・サリーンも辞職した。

このような役員の異動に加え、ビジネス戦略をコンシューマー市場から遠ざけた結果、2001年の売り上げ目標を下方修正せざるを得なくなった。これで、投資家は株をまとめて捨てるように売り始めた。INSPの15億ドルという1月末現在の時価総額は、ジェインのいう1,000億にはほど遠い数字になってしまった。

しかし、ゴートゥーネットの悲惨な買収劇、それに続く経営陣の大整理にもかかわらず、INSPは未来に大いなる可能性を秘めた、よ

くチューンアップされたマシンのような企業に見える。少なくとも、現在の株価の下落は、ウォール街の「群衆心理」によるところが大きいのではないだろうか。あるいは、企業を英雄に祭り上げたり、不適格者としての烙印を押し下ろすという変化が速すぎるとしてもいい。現在、INSPの株を欲しがりたい人は誰もいない。ウォーレン・バフェットは「誰もが欲を出しているときには慎重になり、誰もが恐れをなしているときには欲を出せ、それが群衆心理を利用する方法だ」と説いた。もし、ジェインが経営陣のリストラをうまくやってのけ、激怒しているウォール街のアナリストたちを今いちど説得することができるなら、INSPは彼がいうような利益を出すようになるだろう。そして、5ドルという株価は今年最高のバーゲンセールになるかもしれない。

Back Number Index

『Money meets the Internet 第3部』では、過去に取り上げた企業（銘柄）のトラッキングも行っていく。この記事は銘柄の推奨記事ではないが、記事で取り上げたあとでその企業の株価がどのように動いたのかわかるだろう。なお、第2部までの過去の記事はウェブサイトにも公開しているので、見逃した方はご覧になられたい。

internet.impress.co.jp/moneymeets/

掲載号	企業名 (Ticker)	掲載時の株価	2月5日現在	騰落率
00年11月号	サンディスク (SNDK)	90.06	30.94	-64.53%
00年12月号	グローバルスター (GSTRF)	7.81	0.81	-89.63%
01年01月号	ヒューマン・ゲノム・サイエンセズ (HGSI)	96.00	61.00	-36.46%
01年02月号	ジェムスターTVガイド (GMST)	45.63	51.81	+13.56%
01年03月号	チェックポイントソフトウェア (CHKP)	120.56	152.50	+26.49%

単位：ドル



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp